# 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

1 会議名 可茂特別支援学校 学校運営協議会 (第1回)

2 開催日時 令和7年5月15日(木) 10:00~12:00

3 開催場所 可茂特別支援学校会議室 閉会後に、委員による授業見学を実施した。

4 参加者 会 長 板倉 寿明 愛知淑徳大学 非常勤講師

副 会 長 各務 眞弓 NPO 法人可児市国際交流協会 事務局長

委員福地達也 ダイオーエコワーク東海株式会社 代表取締役社長

島田 陽子 障がい者福祉施設ハートピア可児の杜 施設長

石原 京子 美濃加茂市児童発達支援センターカナリアの家 所長

天野 利彦 牧野区長

鈴木 篤志 当校PTA会長

学校側 大竹陽平 校長

村山 朋子 事務部長

河原 春恵 教頭

飯田 直樹 教頭

鈴木 美幸 小学部主事 (欠席)

河田 覚 中学部主事

三橋 正康 高等部主事

中島 啓介 教務主任

#### 5 会議の概要(協議事項)

(1) 令和7年度学校概要について

学校 : 教育の概要、学校運営機構等、教職員の働き方改革(資料)

意見1:生徒が、就労に向けて目標設定を行い、頑張っている様子は、企業としても大変あり

がたい。

意見2:学校を卒業後、福祉サービスを受けながら施設等で過ごす中で、生活の変化に戸惑う利用者も多い。本校との連携をさらに深め、利用者が困らないようにしていきたい。

意見3:当センターを利用した幼児や保護者が笑顔になって帰ってほしいといつも願っている。 本校の校訓の説明を聞き、つながっているところが大いにあり、嬉しい。

意見4:今年度、白川町や東白川町居住の児童生徒が在籍していないのはなぜか。

⇒昨年度まで白川町の生徒が在籍していた。今年度の児童生徒は、地元の小中学校で過ごすことができる実態だと考えている。必要に応じて本校のセンター的機能を活用してもらえばよい。

意見5: 当法人の特徴から、小学校の教員から外国籍児童生徒に対する日本語指導について 相談を求められることがある。指導に関して本校と情報共有できそうである。 意見6:児童生徒数について、初めて現状を知ることができた。職員は足りているか気になる。

意見7:高等部から入学した生徒について、中学校との引継ぎはどのようにしているか。

⇒入学前に中学校の教員に来校してもらい、情報共有をしている。教育相談や個別 相談も行っている。

意見8:職員が困っていることをこの場で話題提起してもらうことはどうか。

⇒後ほど各部から情報提供を依頼するが、今後も困っていること等を話題にし、ア イデアをいただきたい。

意見9:地域に必要とされているという点からも、職員の専門性の向上は課題の一つである。 地域も保護者もこの学校に期待しているので、期待に応えられるようにしていってほ しい。

意見10: 喫茶を以前利用したことがある。生徒は本当に一生懸命取り組んでおり、よい。

## (2) 作業製品の価格設定について

学校 : 高等部作業学習の内容と取り組み方、令和7年度高等部作業製品価格(資料)

意見1:製品が大変丁寧に作られていることが分かった。価格は提示されたものでよい。

意見2:作業学習時における安全管理は大切である。日頃より振り返り、事故等なく進めてほしい。

意見3:販売時に製品を作っている動画を視聴できるようにしてはどうか。また、保護者も こうした映像を見ることで自分の子に対する意識がよい方向に変わるのではないか。

> ⇒保護者には、授業参観等で実際に作業学習の様子を見てもらっている。動画の活用に ついては検討していく。

## (3) 学校と地域の連携について

学校 : 各部からの情報提供依頼(資料)

意見1: 当法人の場所を提供し、作品展示や販売、清掃活動等できることを検討していきたい。

意見2: 喫茶営業について、関係企業に情報提供していきたい。

意見3:製品を扱う企業なので、作業学習の中で連携してできることを考えたい。

# 6 会議のまとめ

- ・第1回学校運営協議会では、全委員より今年度の本校の学校運営基本方針について承認が得られた。
- ・令和7年度作業製品の価格(令和8年度第1回学校運営協議会まで)について、全員より承認が得られた。
- ・新規の委員がほとんどだったため、まず本校のことを知ってもらい、そのうえで、それぞれ の立場で連携や協力ができることを積極的に提案してもらうことができた。今後は、提案さ れたことを学校運営に活かしていく。
- ・児童生徒数の増加、多様な実態への対応、高等部の在り方等の当校の課題を共通理解し、外 部からの意見や助言をもらいながら改善に向けて工夫をしていく。